

ニュージーランドは本日、国連安全保障理事会の常任理事国5名に対し、シリアで行動できないことが公正な人々の目から見た信頼を奪っていると述べ、大規模な残虐行為に関する問題に対する拒否権を放棄するよう求めた。

「25,000人の死者、数え切れないほどの数千人の負傷者、さらに数千人の避難民やホームレスが安全保障理事会の行動を起こすのに十分でない場合、それは何を必要としますか？」ニュージーランドのマッカーリー外相は、ニューヨークの国連本部で開催されたハイレベル討論の5日目に、第67回総会に出席した。

「国連安全保障理事会がシリアに関して行動することが完全に不可能であるため、私が代表する人々の欲求不満のレベルを誇張するのは難しいだろう」と彼は、蜂起以来のシリアの人道犠牲について述べた。バシャーアルアサド大統領に対する反対は18ヶ月前に噴火した。

「そして、安全保障理事会が行動できないことによって、合理的で公正な人々の目に信頼を失うリスクがある程度を誇張することはさらに難しいだろう」と彼は付け加えた。拒否権の使用—中東の国の危機に関する統一された行動方針について合意に達するための15人のメンバーからなる組織。

マッカーリー氏は、アラブ連盟がこの問題に関して示したリーダーシップを歓迎し、理事会からのリーダーシップがない場合、議会はより活動的な役割を果たす方法を見つけると示唆した。「しかし、これらすべてから、安全保障理事会の改革のケースは完全に説得力のあるものになりました」と彼は述べました。

「拒否権のある中国、フランス、ロシア、英国、米国の5つの常任理事国に言及し、P5に拒否権の使用制限を自主的に受け入れるよう求めるやむを得ない理由があります」と彼は述べた。「さらに進んでその廃止を求めることは無意味です—それは単に起こりません。」

彼は5人に、彼らの重要な国益が危機に瀕している場合にのみ拒否権を使用するよう求めました。1945年に国連の創設で権利を付与されることを主張したときに使用した議論です。

「今日の彼らへの私の挑戦は、拒否権の使用を彼らの重要な国益に明確かつ直接的に影響を与える問題に限定することに集合的かつ自発的に同意し、状況で拒否権を使用しないことに自発的に同意するプロセスを検討することです。大量の残虐行為を伴う。」マッカーリー氏は述べた。

彼はまた、イスラム過激派が北部の支配を掌握し、厳格なシャリア法を課し、約26万人の難民の流出。

マッカーリー氏は、PIFの地域問題に目を向けると、国連、特に安全保障理事会が平和と安全保障の問題に関する地域のリーダーシップを支援するためにできることはもっとあると述べ、小島嶼開発における海洋とその資源の主要な役割を挙げました。状態。

「私たちの地域内の貧しい州の多くにとって、彼らの水産資源は彼らが保有する主要な経済的資産です」と彼は言いました。「しかし、違法な漁業、報告されていない漁獲量、不十分な管理体制のために、これらの国々は資源に対する見返りが少なすぎます。」

バハマのフレデリック・ミッチェル外相。

世界の反対側にあるカリブ海からのニュージーランドの懸念を反映して、バハマのフレデリック・ミッチェル外相は、海とその資源が彼の国にとって極めて重要であることを強調しました。

彼は、バハマが乱獲に対する罰則を導入し、延縄漁業を禁止し、サメ保護区を設立し、海洋保護区を拡大することにより、魚の資源を保護するための行動を開始したと述べた。

「バハマにとって、これらの持続可能な開発戦略は、国際社会によってとられる適切な行動によって補完されることが不可欠です」と彼は言いました。

バハマ外相は、総会でのスピーチで取り上げられた他のトピックの中でも、安保理改革の問題に取り組み、安保理の現在の会期中の問題に関する交渉が「安保理をすべてのものにするを目的とした具体的な進展」をもたらすことへの期待を表明した。それは可能であり、そうあるべきです。」

「代表的で、透明性があり、対応力があり、説明責任があり、民主的で包括的な安全保障理事会は、恒久的および非恒久的カテゴリーの両方でのメンバーシップの増加と、その作業方法の変更を前提としています」とミッチェル氏は述べた。

2人の外相は、10月1日に終了する議会の総会で、個人的、国内的、国際的な関連性の問題について意見やコメントを発表する多数の世界的指導者やその他の高官の一人です。

国連憲章第27条は、決議は「常任理事国の賛成票を含む（15名中の）9名の賛成票」によってのみ可決されると規定している。したがって、常任理事国は、反対票を投じるにより、決議を阻止することができます。これは「拒否権」として知られていますが、「拒否」という言葉はどこにも表示されません。

拒否権は、第二次世界大戦の勝利者が戦争と平和の問題について単一の声で話し、それぞれが選択した決議を阻止する手段を与えないようにするために、憲章の作成者によって導入されました。。憲章の著者は、勝利者は全体として適切な行動に同意することをいとわないと想定していましたが、第二次世界大戦の終結後すぐに、そうではないことが明らかになりました。

このように、東西対立の間、拒否権はかなり否定的な役割を果たし、この憲章条項に対する批判、つまり今日まで続いてきた批判は完全に正当化された。しかし、冷戦の終結以来、拒否権は控えめにしか使われていません。それが無関係になったということではありません。現在起こりがちなのは、常任理事国が、安全保障理事会の決議が彼らの希望に沿って起草されることを確実にするため、または彼らが投票にかけられるのを防ぐために拒否権を使用すると脅迫することです。

非常任理事国も一種の「拒否権の集合的権利」を持っているという事実はあまり注目されていません。安全保障理事会の6人以上のメンバーが決議を支持しない場合、たとえすべての常任理事国が賛成票を投じたとしても、過半数に必要な9票を獲得する方法がないため、決議は失敗します。ただし、これはめったに発生しません。

加盟国は拒否権を撤廃し、安全保障理事会を拡大して新しい常任理事国入りを求めるよう呼びかけ、総会で15人のオルガンの改革計画が議論される

今日のますます複雑化する国際安全保障と平和のアーキテクチャの新たな課題に対処するために、国連安全保障理事会は、過小評価された地域、特にアフリカを含むようにそのメンバーシップを適応、改革、拡大しなければなりません。

マリア・フェルナンダ・エスピノサ・ガルセス議会議長（エクアドル）は、終日の討論を開始し、評議会は新しい政治的現実に適応しなければならないと強調し、代表の増加はその正当性と決定の実施を後押ししました。しかし、理事会のメンバーを増やすという問題は20年間議会の議題になっていますが、重要で重要な機関を改革する方法については合意に達していない、と彼女は言いました。理事会改革への全面的な支援を約束

し、彼女はこの問題が複雑であり、国際の平和と安全を確保するための努力と密接に絡み合っていることを認識した。

代表団は、理想的な解決策の範囲について話し合った。多くの人々が常任理事国の数を現在の5つ（中国、フランス、ロシア連邦、英国、米国）を超えて拡大し、決議案の採択を却下するための常任理事国の拒否権の使用を廃止するよう求めた。

シエラレオネの代表は、アフリカのグループを代表して、15人のメンバーのオルガンで議論されたほとんどの問題が彼の大陸に関連していることにスポットライトを当てました。その54カ国は、国際の平和と安全だけでなく、それ自身の大陸に関する決定にも関与しなければなりません。アフリカは、拒否権が残っている場合はそれを含めて2つ以上の常設議席と、5つの非常設議席を要求します。この立場に対する加盟国からの広範な支持は、「恒久的なカテゴリーに代表されないという歴史的な不公正を是正する」時が来たことを意味します。

「私たちは無関心でいる余裕はありません」とアルジェリアの代表は言いました。国連の加盟国の数が最も多いにもかかわらず、アフリカは引き続き弱体化しており、理事会の中心的な意思決定ユニットである恒久的なカテゴリーに代表を置いていません。

ガイアナの代表は、カリブ共同体（CARICOM）を代表して発言し、評議会はラテンアメリカやカリブ海を含む他の地域も常任理事国から除外したと指摘した。多国間主義と包括性は、国連とその機関の活動を強化するだけです。

加盟国はまた、理事会改革に関する政府間交渉の進展を達成するのを支援する上での議会の役割を強調した。インドの代表は、4つのグループ（ブラジル、ドイツ、日本および彼の国）を代表して、議論は通常の手続き規則の下で行われるべきであると強調した。彼は、「否定的な発言者」が暗い影を落とし、圧倒的多数を抑えることは許されないと付け加えた。

代表団は、特定の重要な問題についてのコンセンサスの欠如について懸念を表明し、パキスタンの代表団は、非常任議席の数を拡大することに合意したにもかかわらず、常任議席の拡大に関して疑問が残っていると指摘した。「理事会が常任理事国5名の利益を調整できない場合、より大きな理事会の利益にどのように対処するのでしょうか？」彼女は尋ねた。

他の人々は評議会の作業方法に疑問を呈し、キューバの代表は、臓器がその範囲外の機能を引き受ける傾向が高まっていることにスポットライトを当て、他の臓器の役割を奪った。

理事会の常任理事国5名のうちの一部も討論に参加し、中国の代表は必要な改革への支持を表明し、発展途上国、特にアフリカ諸国の代表の増加を優先した。改革を達成する唯一の方法は、コンセンサスベースのソリューションを追求することです、と彼は付け加えました。

米国の代表は、彼の国が恒久的および非恒久的なカテゴリーでの理事会の「適度な拡大」を支持すると述べた。新しい常任理事国入りを検討する際には、国際の平和と安全の維持に貢献する候補者の能力を考慮に入れる必要があります。彼はまた、拒否権の使用の変更に対する彼の代表団の反対に言及した。

ロシア連邦の代表も拒否権を擁護し、拒否権の使用により、国連が疑わしい企業に関与することを何度も免れたことを強調した。

また、本日は、クウェート（アラブグループを代表して）、セントビンセントとグレナディーン（「L.69」グループを代表して）、イタリア（コンセンサスグループを代表して）、アイスランド（北欧を代表して）の代

表者が講演しました。国)、大韓民国、オーストラリア、リビア、リヒテンシュタイン、モンゴル、モルディブ、ブラジル、シンガポール、アルゼンチン、南アフリカ、日本、コロンビア、カタール、スロベニア、トルコ、スロバキア、ウクライナ、スーダン、ポルトガル、インドネシア、サンマリノ、ハンガリー、エジプト、ラトビア、コスタリカ、バングラデシュ、フランス、マルタ、モロッコ、ドイツ、モルドバ共和国、ケニア、ブータン、マレーシア、イラン、アイルランド、スペイン、エストニア、コンゴ、イギリス、タンザニア連合共和国、メキシコ、大韓民国。

総会は11月21日水曜日の午前10時に再び会合し、奴隷制の廃止と大西洋奴隷貿易の記念を記念し、持続可能な開発目標の達成に対する急速な技術変化の影響について話し合います。

## 開会の挨拶

国連総会議長のマリア・フェルナンダ・エスピノサ・ガルセス(エクアドル)は、安全保障理事会の公平な代表とメンバーの増加の問題は、この問題についての議論を開始したとき、20年間議会の議題になっていると述べた。しかし、国連の重要かつ重要な機関をどのように改革するかについては、コンセンサスが得られていません。彼女は交渉の共同進行役に感謝の意を表明し、加盟国は理事会を改革するという信念を持って団結していると述べた。「少なくとも80人の世界の指導者がこの必要性を強調した」と彼女は議会の一般的な討論の間の議論に言及して言った。理事会は、多国間主義の概念を強化しながら、その正当性とその決定の実施を後押しする代表の増加により、新しい政治的現実に適応しなければなりません。

彼女は、議会議長として、加盟国によって推進されなければならないプロセスである理事会改革に全面的に支援することを約束すると述べた。「私たちは対話の枠組みに真剣に固執しなければなりません」と彼女は述べ、進歩を進めるための実用的なアプローチを探求するよう加盟国に奨励しました。この問題は複雑であり、国際の平和と安全を確保するための努力と密接に絡み合っています。そのため、加盟国は、透明性の向上を求める声に応えるために可能な限りのことをしなければならない、と彼女は述べ、理事会の説明責任を高めるといった共通の願望に対する彼女の支持を繰り返した。

## ステートメント

MANSOURAYYADSH. A. ALOTAIBI(クウェート)は、アラブグループを代表して、国際連合が国際的な課題に対処するためのより良い立場に立つために抜本的な改革プロセスを進めていると述べました。「評議会の改革は、全体的な組織改革の重要な柱です」と彼は言い、その目的は、新たな課題に対処するために評議会を配置することでなければならないと付け加えました。彼は、いくつかの関連するイニシアチブに留意し、加盟国からの幅広い支持を享受する妥協した解決策を求めた。総会内での政府間交渉は「理事会改革を達成するための唯一の手段である」と彼は述べ、改革の議論に関する一貫性の必要性を強調した。

彼は拒否権の恣意的な使用について警告し、それは理事会の活動を弱体化させ、国際の平和と安全を維持することができなくなると述べた。「拒否権の使用は、常任理事会メンバーの純粋な政治的利益を反映しています」と彼は言いました。改革の全体的な目的は、すべての地理的グループが公正に代表されることを確実にすることでなければなりません。評議会の活動の多くはアラブ地域に関係しているため、アラブグループは、機関の信頼性と正当性を保証するために公正に代表されなければなりません。彼は、理事会内での恒久的なアラブ代表とそれに比例した非恒久的な代表を求めた。理事会の作業方法を改善する必要性を指摘し、彼は恒久的な手続き規則の作成を求めた。「私たちは非公開の相談の数を減らす必要があります」と彼は言いました、

フランシス・ムスタファ・カイカイ(シエラレオネ)は、アフリカのグループを代表して、組織の包括的な改革が国連憲章の原則と理想の維持に大きく貢献することを大陸が確信していると述べた。安全保障理事会で議

論されている問題のほとんどはアフリカに関連しています。したがって、大陸は意思決定プロセスに効果的に参加できる立場になければなりません。アフリカは、拒否権を含む2つ以上の常設議席と、5つの非常設議席を要求しています。アフリカは原則として拒否権に反対していますが、拒否権が存在する限り、すべての常任理事国が拒否権を利用できるようにする必要があります。

アフリカの共通の立場は加盟国からかなりの支持を得ており、彼は続けて、「恒久的なカテゴリーに代表されないという歴史的な不公正を是正する」必要性を繰り返した。しかし、改革モデルに関する加盟国と利害関係者グループの立場の相違は、政府間交渉の5つのクラスターすべてについてコンセンサスを構築する上での進展に挑戦し続けています。「私たちは、国際システムをダイナミックで効果的な民主的多国間主義の軌道に乗せるユニークな機会があります」と彼は言いました。アフリカは、安全保障理事会が現在および新たな課題により敏感になるような意味のある改革を引き続き提唱します。

RUDOLPH MICHAEL TEN-POW（ガイアナ）は、カリブ共同体（CARICOM）を代表して発言し、安保理の不均衡が続くと、地域全体、特にアフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海が常任理事国から除外されることが含まれると述べた。これは、国連の現在の加盟国のほぼ50パーセントがその主要な機関の1つで恒久性を禁じられていることを意味します。評議会は会員の進化に追いついていないと彼は言い、その活動は重要な視点と経験の恩恵を見逃し続けていると付け加えた。

理事会は新しい政治的現実に適応しなければならない、と彼は述べ、国連は多国間主義と意思決定への公平な関与の価値を引き続き確認していると述べた。理事会は、すべての加盟国の見解を尊重し、平和と安全の質問に公平に関与する機会を提供するために再編成されなければなりません。すべての国が理事会改革に関する対話に有意義に貢献できると付け加え、彼は、プロセスの正当性を高めるために最大限の参加が奨励されるべきであると述べた。

NEDRA P. MIGUEL（セントビンセントおよびグレナディーン諸島）は、「L.69」グループを代表して、「世界はルールに基づく多国間秩序の構造に亀裂を経験しているため」、今日の議論は特にタイムリーであると述べました。彼女は、国連が世界で最も差し迫った課題に取り組むことに従事し、実践的になる必要性を強調し、組織が追求できるいくつかのステップを概説しました。第一に、常任理事国と非常任理事国を拡大することにより、安全保障理事会を真に代表させることが重要です。世界は、国連とその加盟国がレトリックから行動へと移行することによって彼らのコミットメントに真剣に取り組んでいることを理解しなければなりません。

透明性は前進の鍵であり、彼女は続けて、次の再開されたセッションでこの議題項目の下で別の本会議を召集するよう議会議長に呼びかけた。この問題についてもっと議論する必要があります。彼女はまた、政府間交渉会議のカレンダーを事前に利用できるようにすることを要求した。加盟国は、その計画に制約を受けてはなりません。この議題項目の進展は遅いものの、加盟国はいくつかの実質的な利益を上げています。たとえば、アフリカの共通の立場は、政府間の交渉において圧倒的な支持を受けています。

SYED AKBARUDDIN（インド）は、グループ4（ブラジル、ドイツ、日本、および彼の国）を代表して、理事会の正当性と有効性を高めるために、恒久的および非恒久的なメンバーシップのカテゴリーの拡大を求めました。「私たちはまた、その作業方法の改善を望んでいます」と彼は言い、この感情は加盟国の大多数によって共有されていることを強調しました。10年にわたる議論の後、政府間の交渉プロセスを正常化する時が来ました。「このセッションで車輪の再発明をする必要はありません」と彼は続け、すでに行われた進歩に基づいて構築する必要があることを強調しました。共通点の要素とさらなる検討のための問題に関する論文は、このセッションの進展を達成するためのオープンで透明な方法の出発点となる可能性があります。

彼は、対話と議論の機会が増えることを歓迎しました。これは、より早い時期に開始されるべきであり、人為的な期限に制約されるべきではありません。政府間交渉は、他のすべての総会プロセスと同様に、通常の手続き規則の下で機能する必要があります。「否定的な発言者」は、メンバーシップ全体に暗い影を落とし、圧倒的多数を抑えることはできません。4人のグループは、共通の立場を持っていますが、このプロセスのさまざまな視点も尊重しています。交渉を意味のあるものにするためには、さまざまな立場のさまざまな側面をリストアップすることが重要です。これは、交渉のテキストを作成するときに特に重要になります。

MARIA ANGELA ZAPPIA（イタリア）は、コンセンサス連合グループを代表して、政府間の交渉はオープンで、包括的で、透明性があると述べた。議論により、加盟国間の以下の収斂が確認されました。過小評価地域を支持する議席の拡大。拒否権を制限または廃止します。審議は評議会の現在の作業方法に影響を与え、評議会をより透明で、オープンで、有益なものにします。「総会は、理事会での過小代表を是正するというアフリカの要請に対処する必要があります」と彼女は主張し、アジア太平洋、アラブ、ラテンアメリカ諸国の代表を増やすことも求めた。

彼女は、グループが新しい長期の非常任議席の創設を提案しており、即時の再選と非常任議席の2年間の任期への延長の可能性があるとして述べた。これらの提案を通じて、評議会は26名のメンバーで構成され、そのうち21名は非永続的であると彼女は述べ、「誰もが利益を得て、より多くのアクセスを得る」と付け加えました。多国間主義を強化するためには改革が必要であり、これはより代表的な評議会を創設することによって達成されます。小国は「平和と安全の維持のための解決策を見つけることに貢献するより大きなチャンス」を持たなければならない、と彼女は言った。改革への主な障害は、常任理事国の増加に対する要求であり続け、これらの努力は少数の国にしか利益をもたらさないと警告した。

BERGDIS ELLERTSDOTTIR（アイスランド）、北欧諸国を代表して、今日直面している多面的な課題を考えると、安全保障理事会はより透明で、効果的で、説明責任があり、代表的でなければならないと述べた。この文脈での国連改革の進展に勇気づけられ、彼女は、現在の世界的な政治的および経済的現実をよりよく反映し、アフリカの常設および非常設議席を含む発展途上国の代表を増やすことを目的とした、理事会のバランスの取れた拡大への支持を表明した。小国が選出されたメンバーとして理事会の意思決定プロセスに参加できるようにすることも重要であると彼女は述べた。理事会改革に取り組むためのテキストベースの交渉の開始を呼びかけ、

キムソング（朝鮮民主主義人民共和国）は、理事会の改革は、より広範な国連改革の取り組みの中心であると述べた。理事会は、国際的な平和と安全を確保し、平和を構築するために努力しなければなりません。「しかし、今日、主権、平等、非干渉の原則は評議会によって公然と無視されている」と彼は述べ、臓器は一国主義に満ちており、事実上「不安評議会」になっていると警告した。理事会の改革は、国際正義、公平性、民主主義の原則に基づいて行われ、非同盟運動のメンバーの完全な代表を確保する必要があります。この問題に関する政府間交渉の10年後、常任議席の数を拡大することについて深刻な相違が残っています。結果として、成功への最善の道は、非常任議席の増加を追求することです。

TEGAN BRINK（オーストラリア）は、安全保障を支援し、世界的な課題への集団的対応を促進する国際的な規則と制度は緊張していると述べた。国連の平和と安全の柱の頂点に立つ安全保障理事会は、可能な限り効果的でなければならない。それにもかかわらず、臓器の実質的な改革はかなり遅れています。現代の地政学的現実を反映するために、彼女の政府はアジア、アフリカ、ラテンアメリカからのより多くの代表を支持しています。オーストラリアはまた、大規模な残虐行為の状況での拒否権の抑制、および理事会の作業方法の改善に賛成しています。彼女はタスクの複雑さを過小評価していませんが、加盟国は毎日複雑なタスクを扱っています。その意味で、彼女の代表団は、臓器をより合法かつ効果的にするための理事会改革に向けた努力に取り組

んでいます。

ELMAHDI S. ELMAJERBI (リビア)、アフリカのグループとアラブのグループと協力して、交渉は評議会の仕事に前例のない改革を提供しなければならないと言いました。国連憲章は、危機と戦争を防ぐことを目的としており、彼は述べ、これらの願望はすべての国が誠実に協力することを要求していると述べた。彼は、新しい現実には、国際の平和と安全を維持することを任務とする機関である理事会の再考が必要であると述べた。改革は全体論的であり、公平な表現を確保する必要があります。彼は、「歴史的な誤り」がアフリカに行われていると述べた。それは、その仕事が一貫して大陸に関係している器官で過小評価されているからである。リビアは政府間レベルで交渉を再開する立場を歓迎し、共通の理解に到達するためのさらなる努力を促したと彼は述べた。

GEORG HELMUT ERNST SPARBER (リヒテンシュタイン) は、政府間の交渉プロセスにおける長期の停滞は、理事会にその履行の責任を負わせるための総会のすでに冷静な実績を悪化させると述べた。紛争の可能性は高まっており、これまで以上に強力で強固な国連が必要とされています。リヒテンシュタインは、今後の中間点となる可能性のある拡大モデルを提案しました。それは、8年から10年の長期議席の新しいカテゴリーであり、即時再選の可能性があります。新しい拒否権はなく、新しい2年間の議席を追加する柔軟性、強力なレビュー条項、および長期議席の選挙に敗れた加盟国が短期議席に立候補することを禁じる「フリップフロップ」条項はありません。提案の他の主要な要素。リヒテンシュタインは、理事会が重要な結果を達成するのを支援するために、志を同じくする国々と協力してきました。残虐行為の犯罪を防止し、終わらせるための行動規範に同意することは、評議会のメンバーから期待されるべき最低限の約束です。

SUKHBOLD SUKHEE (モンゴル)、「L.69」グループとの関係で、1945年に設立された安全保障理事会は21世紀の政治的現実を満たしていないと述べた。20年以上にわたる理事会改革の取り組みはほとんど進展をもたらさず、政府間の交渉は具体的な成果を生み出すことができませんでした。「非生産的な回覧討論を召集するのではなく、テキストベースの交渉を開始しなければならない」と彼は述べた。モンゴルは、現代の現実を反映する方法で常任理事国と非常任理事国を拡大する必要性を維持しています。「拒否権は廃止されなければならない」と彼は主張し、権力が存在する場合、それはすべての新しい常任理事国に拡大されなければならないことを明らかにした。拡大の取り組みは、過小評価されたグループや地域に焦点を当てた公平な地理的表現を重要視する必要があります。非永続的なカテゴリに目を向けると、

ALI NASEER MOHAMED (モルディブ) 改革された評議会は、現在の政治的および経済的現実を反映するために、より多くの常任理事国を持つべきであると述べた。また、国連憲章で明示的に要求されているように、公平な地理的分布を維持し、小国を含む発展途上国を構成する必要があります。その間、そのような国は当選するために大金を費やす必要はないはずで、資源の制約にもかかわらず、より小さな国は高価なキャンペーンを行うことが期待されており、そうする余裕がない人は負けます。これが、国連の設立以来、8つの小島嶼開発途上国だけが評議会の議席を確保することに成功した理由です。奉仕する機会が与えられれば、より小さな州は独自の視点と新鮮なアイデアをテーブルにもたらすことができます。従来のセキュリティ問題を越えて、

MAURO VIEIRA (ブラジル) は、設立から10年経った今でも、政府間の交渉は十分に進展していないと述べた。それはどこにも通じない抽象的な概念の終わりのない議論であってはなりません。そのようなアプローチは、大多数の加盟国の利益に貢献せず、政府間交渉全体の正当性を危険にさらす可能性があるとして彼は、テキストベースの交渉の開始を求める前に言った。同氏は、グループ・オブ・フォーが提案した3段階の戦略への支持を表明し、政府間の交渉の継続性を保証する必要があると述べた。次のセッションは、前のセッションの結果報告とフロアからの介入に基づいて、文書「共通性の改訂された要素とさらなる検討のための問題」につい

での討論から始める必要があります。これにより、加盟国から圧倒的な支持を受けたポジションが確実に考慮されます。今後の会議は、討論の結論を人為的に締め切ることなく、できるだけ早く開始する必要があります。また、どの州からも妨害されることなく、通常の手続き規則に従わなければなりません。

BURHAN GAFOOR（シンガポール）は、安全保障理事会が今日の加盟国間の多様性を反映し、例示しなければならぬという彼の立場を繰り返す、アフリカを含むより大きな地理的表現と包括性を備えています。拡大されたメンバーシップには、恒久的および非恒久的なカテゴリーが含まれている必要があります、小島嶼開発途上国は、その規模を理由に除外されるべきではありません。政治的分裂または拒否権による麻痺は、理事会が効率的、効果的かつタイムリーに行動することを妨げると述べ、特に制裁委員会において、より多くの説明責任と透明性を求めた。制裁の「地下世界」は、より明確にする必要がある分野です。

MARTÍNGARCÍAMORITÁN（アルゼンチン）、コンセンサス連合グループとの関係で、交渉プロセスは多国間主義の精神によって導かれなければならないと述べた。結果は民主的に到達する必要があります。アルゼンチンは、理事会をより透明で包括的なものにするための革新的で首尾一貫した方法を提案する準備ができています。彼は、コンセンサスと一般的なサポートを獲得するイニシアチブに焦点を当てる必要性を強調しました。アルゼンチンは、すべての代表団が同じ多国間精神で行動しなければならないと信じています。「この精神によってのみ、10年間の交渉の後に進歩を遂げることができます」と彼は付け加えました。拒否権の使用について、彼は、国連の創設以来、拒否権に対するアルゼンチンの反対を想起しました。すべての国の主権の平等は、より広い国際社会がほんの一握りの国に与えられた特権を削減するときのみ尊重されます。安全保障理事会は、すべての加盟国がその作業に責任を負わせることで、よりオープンかつ透明に機能しなければなりません。

JERRY MATTHEWS MATJILA（南アフリカ）安全保障理事会の最初で唯一の拡大から53年が経過し、それが非常任理事国の数のみでの増加につながったことを観察した。理事会改革を達成するための交渉を再活性化するためにすべての加盟国に政治的意思を行使するよう促し、世界と理事会の活動は過去73年間で著しく変化し、アフリカへの注目がますます高まっていると述べた。この大陸の10億人以上の人々が恒久的な評議会のメンバーシップなしで残っていることは異常なままであり、それは正当化され続けることができません。評議会の現在の構成は、必要であり、必要な改革が実施されない場合、その正当性、信頼性、および高い地位を損なうことになるでしょう。加えて、

別所浩郎（日本）は、4人のグループと協力して、テキストベースの交渉の長い間延期された開始はすぐに開始されなければならないと述べました。これは、過去10年間の作業に続く自然な次のステップです。政府間交渉の10年後でも、加盟国はまだ交渉するためのテキストさえ持っていないことに懸念を表明し、そのような不在はそれらの国が前進する能力を損なうと述べた。160か国以上が、テキストベースの交渉への支持を表明しています。日本は、理事会が恒久的および非恒久的カテゴリーの両方で拡大されるべきであると長い間信じてきました。すべての加盟国の立場を明確に反映したテキストは、合意に達するために必要な「ギブアンドテイク」の議論への関与を可能にします。現在の政府間交渉プロセスは見直されるべきである、と彼は続けた。

GUILLERMOROQUEFERNÁNDEZDESOTOVALDERRAMA（コロンビア）、コンセンサス連合グループとの関係で、評議会改革は臓器の正当性に直接対処すると述べた。評議会改革に関連する集団的意思決定プロセスは、「一握りのメンバー」への特権の譲歩に焦点を合わせてはなりません。結果として、拒否権を持つ新しい常任理事国は、安保理の任務に積極的に利益をもたらすことはありません。コロンビアは真に民主的な改革を確実にするために努力するだろうと彼は言い、グループは常に他の組織と協力して改革問題について合意に達すると付け加えた。拒否権は、議論を妨げる重要な要素の1つです。「拒否権は、国連の基本原則、すなわち主権国家の平等に違反している」と彼は主張した。選挙に基づく地域ローテーションは、公平な地理的表現を

確保するために、理事会のメンバーを拡大する中核となる必要があります。

RODNEY M. HUNTER（アメリカ合衆国）彼の国は、恒久的および非恒久的なカテゴリーでの理事会の「適度な拡大」を支持すると述べた。「新しい常任理事国入りを検討する際には、国際の平和と安全の維持に貢献する候補者の能力と意欲を考慮しなければならない」と彼は述べ、米国は拒否権の変更に反対していると述べた。彼は、形式が幅広いコンセンサスを可能にする限り、テキストベースであろうとなかろうと、あらゆる形態の政府間交渉に対する政府の開放性を確認した。米国は効果的かつ効率的な評議会を求めており、その目的に向けて機能する改革のみを支持しています。改革の努力は、国際の平和と安全への挑戦に取り組むという理事会の核となる使命を前進させなければなりません。「近代化された評議会は、21世紀を代表するだけでなく、

馬朝旭（中国）、理事会改革に関する2017年の率直な交渉を想起し、優先順位に関する相互理解が達成されたと述べた。理事会の改革には、すべての加盟国の重大な利益と国連の長期的な成功が含まれます。北京は必要な改革を支持し、発展途上国、すなわちアフリカ諸国の代表の増加を優先している。改革を達成する唯一の方法は、関連する総会決議を実施し、コンセンサスベースの解決策を追求することです。「人為的なタイムラインを設定し、テキストベースの交渉を恣意的に開始しようとする、と、団結が損なわれ、小国の貢献に悪影響が及ぶだろう」と彼は警告した。加盟国は、互いの立場をよりよく理解するために、率直で綿密な交渉を追求しなければならない、と彼は述べた。

TALAL RASHID NM AL-KHALIFA（カタール）は、アラブグループと連携し、平和と安全における国際的な課題の増加により、加盟国は引き続き理事会を改善するための改革を提案することを余儀なくされていると述べた。このような改革は、国連の全体的な信頼性にとって依然として重要です。改革プロセスの成功を確実にするためには、議論中のクラスター間の相互関係を加盟国が認識する必要があります。カタールは、理事会をより包括的かつ効果的にする包括的な改革を引き続き支援します。「私たちは中小国により多くの機会を与えなければなりません」と彼は言い、そのようなイニシアチブは理事会の作業方法の改善とも密接に関連しているべきであると付け加えました。拒否権の使用を制限することで、凶悪な犯罪を阻止し、減らすことが証明されています。

ANAYANSIRODRÍGUEZCAMEJO（キューバ）評議会改革に関する5つのクラスターは、個別にではなく、包括的に分析する必要があると述べた。憲章によって他の機関に割り当てられた役割をますます奪う一方で、問題を検討し、その範囲外の機能を引き受けるという理事会の傾向の高まりに懸念を表明し、彼女は「この傾向は直ちに停止しなければならない」と述べた。理事会は、国際の平和と安全に必ずしも差し迫った脅威をもたらすとは限らない問題に頻繁かつ時期尚早に取り組んできました。非公開の評議会会議と非公式協議は例外であり、規則ではありません。透明性と説明責任のレベルを高めるために、理事会の作業を規制するための最終テキストを採用する必要があります。「安全保障理事会の規則が70年間暫定的なままであることは信じられない」と彼女は付け加えた。

MALEEHA LODHI（パキスタン）、コンセンサス連合グループとの関係で、議会のハイレベルなセグメントは集団行動の呼びかけによって特徴付けられたと述べた。国連は加盟国に代わって行動しなければならないだけでなく、加盟国のためにも行動しなければならない、と彼女は言い、組織が信頼できるものであるためには、すべての加盟国の利益を代表し反映しなければならないと付け加えた。それが理事会の改革努力の出発点に違いない、と彼女は述べ、改革プロセスを「多国間主義の基本に対する私たちのコミットメントの真の表現」と呼んだ。彼女は、非常設議席の拡大についてはコンセンサスが存在するが、常設議席の拡大については疑問が残ると述べた。「理事会が常任理事国5名の利益を調整できない場合、より大きな理事会の利益にどのように対処するのでしょうか？」彼女は尋ねた、非常任理事国は伝統的に包摂性と透明性を擁護してきたこと

に留意する。彼女は、特にアフリカ諸国にとって、公平な地理的表現を確保するために、会員増強は非永続的なカテゴリーに焦点を合わせなければならないと述べた。

DARJABAVDAŽKURET（スロベニア）は、国連加盟国が自ら設定した目標は、安全保障理事会を広く代表的かつ効率的にし、その活動をより透明にすることであると述べました。選択肢と提案は徹底的に議論され検討されており、毎年数回のセッションがそれらに費やされていると彼女は述べ、「実際の交渉を開始する時が来た」と宣言した。国連の設立以来、世界は大きく変化しましたが、これらの変化のほとんどは理事会に反映されていません。スロベニアは、常任理事国と非常任理事国の両方を拡大する提案、特に東ヨーロッパグループの追加の非常任理事国と、残虐行為犯罪の場合に拒否権を制限するフランスとメキシコのイニシアチブを支持しています。

ASSIA JAZAIRY（アルジェリア）は、アフリカグループおよびアラブグループと連携し、安全保障理事会の両方のカテゴリーで代表されるべきであるという大陸の共通の立場を繰り返した。拒否権は、廃止されない限り、すべての新しい常任理事国に拡大されるべきです。国連の加盟国の数が最も多く、安全保障理事会の議題の4分の3に含まれているにもかかわらず、アフリカは引き続き弱体化しています。アフリカは、理事会の中心的な意思決定ユニットである恒久的なカテゴリーに代表を出していません。アフリカは、安全の平和の維持においてその正当な位置を要求します。「急速に変化する世界情勢の現実に関心でいる余裕はありません」と彼は言いました。

FERIDUNHADISINIRLIOĞLU（トルコ）、コンセンサス連合グループとの関係で、評議会は現在の現実を反映するために緊急に改革されなければならないと述べた。静的な組織を作らないように、改革の努力はコンセンサスを通じて行われなければなりません。改革プロセスは、常任議席の数を増やすことを主張することによって妨げられていると彼は言い、拒否権はそれを保持する国の国益にのみ役立つと付け加えた。拒否権は、評議会を「機能不全、説明責任のない、非民主的」にし、国連への信頼を損ないます。改革により選出された議席の数が増え、すべての加盟国が機関で奉仕する可能性が増す場合、理事会はより代表的で対応力のあるものになるでしょう。「メンバーのパフォーマンスが定期的な選挙にかけられるならば、評議会はより責任があります」と彼は言いました。

ALEXEY R. BOGUSLAVSKIY（ロシア連邦）は、議論が進行中であるが、普遍的な決定はまだ見えていないと述べた。改革分野における主要なプレーヤーのアプローチは、引き続き異なっているか、あるいは正反対でさえあります。ロシア連邦は、理事会の常任代表として、理事会をより代表的にするという呼びかけに同意します。ただし、この分野での取り組みは、課題に効果的かつ効率的に対応する理事会の能力に影響を与えるべきではありません。この点で、ロシア連邦は理事会のコンパクトな性質を維持することに賛成していると彼は言い、最大会員数は20代後半を超えてはならないと付け加えた。その作業方法に目を向けると、拒否権を2回以上使用することで、国連が疑わしい企業に関与することを免れたと彼は述べた。改革プロセスはすべての加盟国が所有する必要があります。その結果は、最大限かつ幅広い支持を享受するはずですが、評議会の改革は、算術的な方法でのみ発生することはできません。交渉テキストを課すことによって進歩を達成することはできません。進展は、加盟国の政治的意思と合意に達する意欲に依存します。このような骨の折れる作業は、恣意的なガイドラインや人為的な期限なしに、透明で落ち着いた方法で実行できます。

MICHALMLYNÁR（スロバキア）は、国際の平和と安全が新しく複雑な課題に直面しているときに、多国間主義に取り組む必要性を強調しました。安全保障理事会の改革は、国連を中核とする多国間システムへの投資となるでしょう。したがって、改革の取り組みを加速する必要があります。スロバキアは、地理的バランスを尊重し、東欧諸国のグループの追加の非恒久的議席を含め、合計25名以下の理事会メンバーで、恒久的および非恒久的な理事会メンバーの拡大を支援しています。常任理事国を含め、アフリカがより広く代表されるよう

にするために、より多くの注意を払う必要があります。

EDUARD FESKO（ウクライナ）加盟国は、理事会が深刻な改革を切実に必要としていることに同意しているが、問題に関するコンセンサスはそこで終わると述べた。評議会の作業方法は改善され、その活動はより透明になりましたが、その設計、構成、および意思決定プロセスの欠陥はほとんど対処されていません。現在の形では、評議会は21世紀の課題に効果的に取り組むには不向きです。それでも、加盟国は、理事会改革に関するよく知られた立場を毎年繰り返すという永続的なサイクルにとどまっており、具体的な進展を遂げることができません。国連が評議会の改革を先延ばしにしている間、臓器が単に彼らを助けることができないので、人々は死にかけています。真の改革がなければ、理事会はその関連性を失い、より広い国際的文脈での地位を失うでしょう。議会が政府間交渉を通じて新たな協議に着手するにつれ、彼の代表団は、特に交渉プロセスを合理化し、より現実的で結果志向にすることを目的とした、すべての進歩的な選択肢と理事会改革への新しいアプローチに門戸を開いています。より具体的には、彼は、選出されたメンバーのカテゴリーで東欧諸国のグループに割り当てられる追加の議席を要求し、常任理事会メンバーの拒否権を制限することを目的としたすべてのイニシアチブへの支持を表明した。

MAGDI AHMED MOFADAL ELNOUR（スーダン）、アフリカグループおよびアラブグループと連携して、理事会の改革は国連改革努力全体の不可欠な要素であると述べた。国連の信頼性とイメージは、理事会をより代表的なものにし、新たな世界的な課題に取り組むことができるようにする努力に依存しています。彼は、この問題に関する交渉のペースが遅いことに懸念を表明し、改革は臓器のメンバーシップと作業方法を説明しなければならないと付け加えた。「理事会の活動は発展途上国のニーズを満たさなければならない」と彼は述べ、アフリカ大陸の代表の欠如のためにアフリカに対して犯された不公正を指摘した。彼は、公の評議会会議の増加を求め、すべての国連機関はそれぞれの任務を支持しなければならないと述べた。スーダンは、理事会が議会の任務を踏んでいることを懸念している。

NUNO VAULTIER MATHIAS（ポルトガル）理事会改革に関する交渉は「包括的、透明かつ包括的」でなければならないと述べた。同氏は、理事会の包括性を強化するために常任および非常任議席の数を拡大する必要があると同時に、新しい形態の会員の創設に対して警告を発する必要があると述べた。評議会改革の努力は、オルガンの作業方法を説明しなければならない、と彼は言い、彼の政府は評議会の議席を占めている間にそのような努力を追求したと述べた。「評議会は、私たち全員がその仕事に抱く高い期待に応え、今日の世界の状況を適切に反映しなければなりません」と彼は主張し、臓器を改革しないことは21世紀の地政学を無視すると付け加えました。彼は、改革された評議会は、少なくとも、アフリカ大陸、ブラジル、インドの存在を必要としていると述べた。

DIAN TRIANSYAH DJANI（インドネシア）安全保障理事会は、国際人道法、人権法、国連憲章の原則を何度も支持できなかったと述べた。彼は、その機関を効果的で、説明責任があり、民主的で、公平に代表するものにするために、その機関の包括的な改革を促した。彼の代表団は拒否権の廃止を支持しているが、拒否権の使用を規制する措置も歓迎し、大規模な犯罪の状況で拒否権を差し控えるイニシアチブへの支持を表明した。さらに、彼は、アジアとアフリカのためにそれぞれ少なくとも4つの追加の非常任理事会の議席と、ラテンアメリカとカリブ海のためのより多くの議席を要求した。より良いコミュニケーションと調整も必要であると彼は観察し、理事会と平和維持活動を主催する国々との間の集中的な対話を求め、

DAMIANO BELEFFI（サンマリノ）は、コンセンサス連合グループと連携し、信頼できる理事会改革には、加盟国主導の包括的なアプローチが必要であると述べました。政府間の交渉により、国家間に幅広い共通点が生み出されることが可能になり、妥協した解決策に到達し、より代表的な評議会を創設するためのさらなる努力が求められていると彼は述べた。コンセンサス連合グループによって提案されたソリューションは、拡大された

評議会を通じて透明性と説明責任の原則を統合します。「提案は包括的であり、すべての加盟国の利益を考慮に入れていますが」と彼は言いました。

KATALIN ANNAMÁRIABOGYAY（ハンガリー）国連改革プロセスは、その主要な執行機関である安全保障理事会が今日の課題に適応するまでは不完全であると述べた。彼女の代表団はそのような改革の長年の支持者であり、その点に関して合理的に野心的であるが現実的な議題を求め、5つの改革クラスターすべてで結果志向の実践的な議論を行っていると言った。ハンガリーは、常任理事国と非常任理事国の両方で安全保障理事会の拡大を支持しています。同時に、彼女の代表団は、暫定的な解決策を目指すすべての実際的な提案を検討する準備ができています。拡大は、公平な地理的表現に基づく必要があると言った。東ヨーロッパグループの2番目の非永続的な議席を求めました。さらに、拡大には、臓器の作業方法の見直しが必要になります。そのような、

MOHAMED FATHI AHMED EDREES（エジプト）は、アフリカグループおよびアラブグループと連携して、国連が新たな課題に対処するためのより良い立場に立つためにいくつかの改革を行っているため、これらの取り組みの本質的な側面は理事会の改革でなければならないと言った。彼は、国連の構成を公平に反映していない場合に、理事会がどのようにすべての加盟国を代表することができるかを尋ねました。全加盟国の25パーセント以上を代表するアフリカグループは、理事会で過小評価されています。理事会改革に関するアフリカの共通の立場に対するエジプトの支持を再確認し、「アフリカに対する歴史的な不公正」を正し、大陸が理事会で正当な役割を果たすことを認める議会内での認識が高まっていると言った。「アフリカの質問は、理事会の活動の大部分を占めています」と彼は述べました。オルガンの仕事の割合の増加はアラブグループにも関係していると付け加えた。理事会は、開発途上国のニーズも考慮しなければならない、と言った。拒否権の使用に起因する理事会に対する常任理事国の覇権の終焉を求めた。

ANDREJ SPILDEGOVIČS（ラトビア）現在の政治的現実を反映するために、評議会をより代表的で、効果的かつ透明にするための一貫した呼びかけがあったと言った。改革は遅れていると言った。テキストベースの交渉が繰り返し求められているにもかかわらず、よく知られた立場を繰り返すサイクルが続いていると付け加えた。結果はコンセンサスを通じて達成されなければならない、ラトビアは待望の評議会改革を達成するための交渉に参加する準備ができています。彼は、東欧グループのための少なくとも1つの追加の非恒久的議席を含め、すべての地域が理事会の恒久的および非恒久的地位に適切に代表されることを求めた。拒否権の使用に目を向けると、彼は、理事会常任理事国は、大規模な残虐行為犯罪の状況でその権力を行使することを控えなければならないと言った。彼は、理事会の透明性と包括性を高めるための作業方法を改善することを目的とした取り組みへの支持を表明した。「現在の世界的な課題に取り組む国連の能力は、安全保障理事会の改革を進める政治的意思に大きく依存している」と彼は結論付けた。

RODRIGO A. CARAZO（コスタリカ）は、改革はコンセンサスと民主主義と包括性の原則に基づいていなければならないと言った。コスタリカが独自のイニシアチブと提案を構築しているのは、これらの原則に基づいています。このように、彼の代表団は評議会でのより公平な代表を歓迎します。この問題については、オープンで包括的な対話を通じてのみ進展が見られます。すべての国は、安全保障理事会に真に代表されていると感じるべきです。コンセンサス連合グループの一環として、コスタリカは政府間の交渉を強化することを目的とした合意を引き続き求めます。主な目的は、完全に代表的で効果的な安全保障理事会を達成することです。

MASUD BIN MOMEN（バングラデシュ）理事会改革に関する加盟国間の収斂の要素を特定するための議論の勢いを維持する必要性を強調し、テキストベースの交渉の開始を求めた。「これらの議論の前向きな推進力を維持することは、すべての加盟国の共通の利益でなければなりません。」彼は、政府間交渉から生じたテキストは、審議を導く手段としての無数の国家グループの立場を概説していると述べた。バングラデシュは、理事

会の常任理事国と非常任理事国の拡大を支持し、26人を理想的なメンバー数として特定していると彼は述べた。彼は、さまざまな地域ブロックの適切な代表を求め、国際法の下での重大な犯罪に関連する事件での拒否権の使用の制限に対する支持を表明した。

ANNE GUEGUEN（フランス）理事会改革に関する議論は、具体的なイニシアチブを決定することなく、何年も続いていると述べた。少しの進展があったとしても、加盟国が合意に達することができないことを隠してはなりません。議会改革はこれまでになく緊急であり、「その責任を担い、交渉を行うのは議会次第である」と彼女は付け加えた。理事会は、国際の平和と安全を維持するために、より代表的でなければなりません。決定的な進展を遂げるためには、テキストベースの交渉をできるだけ早く開始する必要があります。フランスは、理事会が新しい権力の必要性を説明することを望んでおり、常任理事国および非常任理事国としてのアフリカ諸国の代表の増加に加えて、常任理事国としてのブラジル、ドイツ、インド、日本の立候補を支持しています。「危機への私たちの対応は、評議会の部門によって妨げられてはなりません。」と彼女は言い、常任理事国は大量の残虐行為の場合には拒否権の使用を自主的に停止しなければならないと付け加えた。改革の難しさはその必要性を減じてはならない、と彼女は結論付けた。

CARMELO INGUANEZ（マルタ）、コンセンサス連合グループと協力して、新しく拡大された安全保障理事会は、特に国際ルールに基づく秩序が強い圧力と批判にさらされている場合、今日の世界的な課題と多国間主義の実践に関連性をもたらさずだろうと述べた。その概念の縮図を表す器官に欠陥がある場合、多国間主義は弱体化する、と彼は述べ、今日の国連は現在の現実を反映していないと述べた。多国間主義の改善は、「持っている人」の数を増やすことによって達成されないだろうと彼は警告し、彼のグループは平等主義的で包括的で修正的なアプローチの完全なモデルを提示し、安全保障理事会の常任理事国5名。

OMAR HILALE（モロッコ）は、アラブグループおよびアフリカグループと連携し、評議会の改革により、その有効性を損なうことなく、より代表的なものになることができるはずだと述べた。理事会は、平和と安全の維持を委託された主要機関として国連憲章によって指定されています。アフリカは、理事会の常任理事国として代表されていない唯一の地域です。「アフリカには常設の議席があることを確認しなければならない」と彼は述べ、アフリカの共通の立場への支持を表明した。彼はまた、理事会でのより多くのアラブ代表を歓迎し、理事会の改革を目的とした包括性と議論への全面的な支持を約束した。

MATHIAS LICHARZ（ドイツ）は、4人のグループと連携して、政府間の交渉は、この重要な問題の進展を達成するための適切なフォーラムではなくなっているようだと言いました。加盟国は、進展を望む加盟国の大多数が、循環的な議論から直線的な交渉プロセスへの移行を拒否する少数の国々によって人質にされることを許すことはできません。「私たちが安全保障理事会の改革に成功しなければ、安全保障理事会はすでにへこんだ信頼性をさらに失い、他の世界的な意思決定機関、さらに悪いことに、一方的な意思決定だけで影を落とすでしょう」と彼は警告した。加盟国がそれを変更しない場合、理事会は無関係になります。

VICTOR MORARU（モルドバ共和国）評議会は今日の世界をよりよく反映しなければならないことを強調しました。これは、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ、東ヨーロッパの代表を増やすことを意味します。しかし、評議会の改革は、議席数の増加を超えて、より良い効果、説明責任、包括性、透明性につながる必要があります。また、理事会が国連憲章に従って行動し、その決定が一般会員の集合的意思を反映していることを確認する必要があります。拒否権の脅威と使用は、その構成に関係なく、評議会の効果的なパフォーマンスに対する最大の障害の1つです。改革は、理事会の有効性を危うくする可能性のある拒否権の拡大のための前提を作るのではなく、拒否権を最小限に抑える方法と見なされるべきです。

LAZARUS OMBAI AMAYO（ケニア）、彼自身をアフリカのグループと結びつけて、彼の大陸の目標は国連のすべての意思決定機関、特に評議会で完全に代表されることであると言いました。その結果、ケニアは、理

事会の恒久的および非恒久的なカテゴリーの拡大を求めています。彼は、拡大された理事会は少なくとも26人のメンバーで構成されなければならない、アフリカはその候補者を選択する責任を保持しなければならないという立場を再確認した。政府間交渉で検討された改革のクラスターは相互に強化されており、国家は改革を追求する政治的意志を集めるために彼らの立場を近づけなければならない。理事会改革に関するアフリカの共通の立場は、ほとんどの加盟国が機関の拡大を支持していることを認識し、異なる立場を橋渡しするための確固たる基盤を提供すると彼は述べた。

KARMA SONAM TSHOSAR（ブータン）は、「L.69」グループと連携し、現在のセッションのハイレベルセグメントで、世界の指導者の大多数が多国間主義を強化する必要性を強調したと述べた。安全保障理事会の改革と拡大は、その継続的な正当性と説明責任のために必要です。すべての機関は、関連性を維持するために適応する必要があります。彼は、代表されていない地域と代表されていない地域を含め、理事会の常任理事国と非常任理事国を拡大することへの支持を表明した。小国は、理事会の活動に役立つ可能性のある重要な視点をもたらします。誠意を持って交渉を開始する次のステップを踏むことが不可欠です。

KENNEDY MAYONG ONON（マレーシア）評議会の改革は、オルガンを合法で代表的かつ民主的なものにするために、オルガンの作業方法とそのメンバーシップの拡大に対処しなければならないと述べた。マレーシアは、両方のカテゴリーの加盟国の拡大を支持していると彼は述べ、非常任理事国の増加は、加盟国が機関で奉仕できる頻度を増加させるだろうと述べた。彼は現在の拒否権の廃止を求めた。彼は、拒否権が行使されるためには、少なくとも2人の常任理事国によって行われ、3人の非常任理事国によって支持され、その後、議会の単純多数派の支持が続くべきであると述べた。彼は、テキストベースの交渉は審議における理想的な前進であると述べ、加盟国に対し、相互に受け入れ可能な解決策を見つけるための開放性と柔軟性を実証するよう求めた。

ESHAGH AL HABIB（イラン）、安全保障理事会改革の複雑さと敏感さはプロセスの遅れを正当化するべきではないことに留意し、体の大きさと構成、その説明責任と拒否権などの問題の進展を求めた。理事会はより民主的で代表的かつ効果的にならなければならない、と彼は言い、発展途上国がより公平に代表される必要性を強調した。理事会がその作業方法を適切に改善できなかったため、信頼の欠如と、行動が必要ない場合の制裁の使用を含め、その決定の正当性が失われました。「理事会はすべての加盟国に代わって行動するため、したがって、理事会はすべての加盟国に対して説明責任を負わなければなりません」と彼は言いました。特定の決定は、国連の一般会員の見解を反映しておらず、場合によっては、国連の会員の真の意見を表していないことさえあります。憲章によると、安全保障理事会は、国際の平和と安全に脅威を与えない問題や国家の内部問題に関連する問題の検討を避けるべきであると彼は指摘し、安保理を「ツールイン」に格下げする傾向に対して警告した。常任理事国のツールボックス」。

GERALDINE BYRNE NASON（アイルランド）安全保障理事会はもはや国連の構成を代表していないと述べ、「アフリカ諸国の理事会における不当な歴史的過小代表は特にひどい」と付け加えた。さらに、小島嶼開発途上国を含め、最も脆弱な人々の声を聞く必要があります。改革の努力はまた、評議会をより説明責任があり、民主的で透明性のあるものにするべきであると彼女は述べ、選出されたメンバーは評議会の製品の起草とその決定の形成の責任を含め、体に対して完全に平等な役割を果たす必要があると述べた。拒否権は責任であり、権利ではなく、頻繁に悪用されてきたと彼女は観察し、最終的な廃止を支持した。彼女は、テキストベースの交渉への早期の移行を呼びかけ、アイルランドは十分なコンセンサスを指揮できるあらゆるモデルを検討する用意があると述べた。

フェルナンド・バレンスエラ（スペイン）は、コンセンサス連合グループと連携し、理事会の改革を目的として首尾一貫した合意を求める必要性を強調しました。多国間主義は、人類の共通の課題に対する共同の解決策

を見つけるための重要な方法です。「私たちは、21世紀の世界的な課題に取り組む準備ができています、より民主的で代表的で透明性のある評議会を必要としています」と彼は付け加えました。スペインの立場は、理事会への参加は特権ではなく義務であるという信念に基づいて、柔軟でバランスの取れたものです。彼は加盟国に対し、理事会を目的に適合させる方法について合意するために集まるよう要請した。

GERTAU VÄÄRT（エストニア）は、ジェノサイド、人道に対する罪、戦争犯罪の防止または終結を目的とした信頼できる評議会決議に反対しないよう、すべての評議会メンバーに求める行動規範への支持を表明しました。彼の代表団はまた、拒否権の使用に関するフランスとメキシコのイニシアチブを支持しています。エストニアは、大小を問わず、すべての国が評議会に代表される機会を持つべきであると信じています。小国、特に小島嶼開発途上国のより強い声が不可欠です。エストニアはまた、国連全体の代表性と正当性を高め、アフリカ大陸が耐えてきた歴史的な不正を是正する唯一の方法であるアフリカの共通の立場に共感していると彼は述べた。

レイモン・セルジュ・バレ（コンゴ）、自分自身をアフリカグループと結びつけて、評議会での代表は公平ではないと述べ、オルガンのメンバーシップを増やすよう求めた。理事会の改革は議会の権限の範囲内であると彼は言い、この問題に関する非公式協議を追求するためになされた決定を強調した。彼は、理事会改革に関する政府間交渉はまもなく10年になり、「一世代の外交官のエネルギーを消費した」と述べた。交渉は前向きな結果をもたらさなかった、と彼は警告し、評議会をより民主的で透明にするための努力を促した。「世界は変化しました、そして私たちは新しい地政学的傾向の現実と直面しなければなりません」と彼は言いました。国連は過去に立ち往生してはならない、と彼は言い、国連が新たな課題にもっと対応できるようにすることを目的とした継続的な改革努力を指摘した。理事会内でのアフリカの代表は公平性の問題であると彼は言い、2017年の政府間交渉の結果文書は理事会のメンバーの増加に関するコンセンサスを示していると付け加えた。コンゴは、アフリカ諸国のために2つの常設議席と2つの非常設議席の追加を支持しています。

JONATHAN GUY ALLEN（イギリス）理事会の改革への意欲は加盟国の間で高まっていると述べた。「世界は変わったが、理事会の構成はその変化に対応していない」と彼は述べ、平和と安全の維持のための主要機関はそれが保護しようとしている世界を代表しなければならないと主張した。英国は、理事会の作業慣行を近代化する取り組みを支援し、臓器の作業をより効率的、包括的、透明にすることを目的としたイニシアチブを歓迎します。理事会の改革は、その有効性が損なわれないようにする必要があると述べ、「規模が大きくなりすぎると、面倒で遅い意思決定プロセスのリスクが生じる」と付け加えました。同様に、拒否権の問題が評議会の拡大の進展を遅らせることを許されてはなりません。「英国は1989年以来決議を拒否しなかったことを誇りに思っています」と彼は言いました。拒否権は例外的な状況でのみ使用されることに注意してください。彼は加盟国に対し、進展をもたらす可能性のある収斂の領域を見つけるために柔軟な方法で協力するよう求めた。

MODEST JONATHAN MERO（タンザニア連合共和国）、アフリカのグループと協力して、改革プロセスの遅いペースと評議会での彼の大陸の過小評価について懸念を表明した。彼は、彼自身を含むアフリカ諸国が平和維持活動に貢献していると述べた。理事会改革に関するアフリカの共通の立場を指摘し、彼はアフリカ諸国に「拒否権を含むすべての特権と特権を備えた2つ以上の常任議席」を要求した。大陸は原則として拒否権に反対しているが、権利が存在する場合、それはすべての常任理事国が利用できるようにしなければならないと信じている。彼は、総会の第72回会期中の交渉から生じた理事会改革に関する文書が、アフリカの共通の立場を適切に反映していないことに懸念を表明した。

マリー・アントワネット・ソコロ・ハケス・ファクジャ（メキシコ）は、コンセンサス連合グループと協力して、新しい政府間交渉セッションは不可欠であり、単に提案をまとめるだけに限定されるべきではないと述べた。評議会の改革は、民主主義と包括性という共通の目標によって導かれなければなりません。評議会の構成

の変更は、組織の現在のメンバーシップを反映する必要があります。理事会は、すべての加盟国に対してより透明で効果的でなければなりません。彼女はまた、大多数の国が拒否権の使用に反対していると述べた。理事会と議会の関係は、透明性、公平性、客観性をもって行われなければなりません。「私たちは政府間交渉の過去の過ちから学ばなければなりません」と彼女は付け加えました。

趙兎（韓国）は、コンセンサス連合グループと連携し、理事会を20代半ばよりも大きな規模に拡大することは、その影響に深刻な影響を与えると述べた。拒否権を拡大せずに世界の過小評価された地域を支持する非永続的な議席を増やすことは、加盟国間の幅広い収斂を最もよく反映しています。それはまた、可能な限り幅広い支持を享受するであろう最も実行可能な公式によって固定された評議会の改革を達成するのを助けるでしょう。この提案により、さらに11名の非常任理事国が追加され、そのすべてが民主的に選出され、理事会での貢献に基づいて定期的に説明責任を負います。これにより、評議会は最小限の拒否権でより効果的かつ透明な方法で機能することが保証されます。